

Express5800/CS シリーズ
(N8100-802/N8100-805 (A) /N8100-906/N8100-1011/N8100-1012
/N8100-1096/N8100-1141/N8100-1345/N8100-1346)

オンラインアップデート手順書

1. 概要

本手順書は、Express5800/CS シリーズ (N8100-802/N8100-805/N8100-906/N8100-805A /N8100-1011/N8100-1012/N8100-1096/N8100-1141/N8100-1345/N8100-1346) (以下、CS シリーズと略す) において、オンラインアップデート機能を利用してアップデートを行うための手順書です。

2. アップデートを行うにあたっての注意事項

- ・ 必ずこの手順書に沿って作業を行ってください。この手順以外でのアップデートは誤動作の原因となる場合があります。
- ・ CS シリーズにプロキシを介さずに接続できるマシンを用意してください。
- ・ Management Console を起動する場合には、ブラウザとして Microsoft Internet Explorer 5.5 以上を推奨します。
- ・ Management Console に表示されるモジュール名と本手順書の図の中のモジュール名は異なる場合がありますのでご注意ください。

3. アップデート手順

(1) Management Console の起動とログイン

ブラウザより「<https://CSシリーズのIPアドレス:50453/>」へアクセスし、Management Console を起動してください (Management Console のセキュリティモードをレベル 1 に変更した場合は「<http://CSシリーズのIPアドレス:50090/>」となります)。

Management Console のログイン画面 (図 1) が表示されましたら、[システム管理者ログイン] をクリックし、正しくログインしてください。



図 1. ログイン画面

(2) トップ画面

ログインが正しく行われますと、トップ画面(図2)が表示されます。
画面左のメニューより「パッケージ」をクリックしてください。

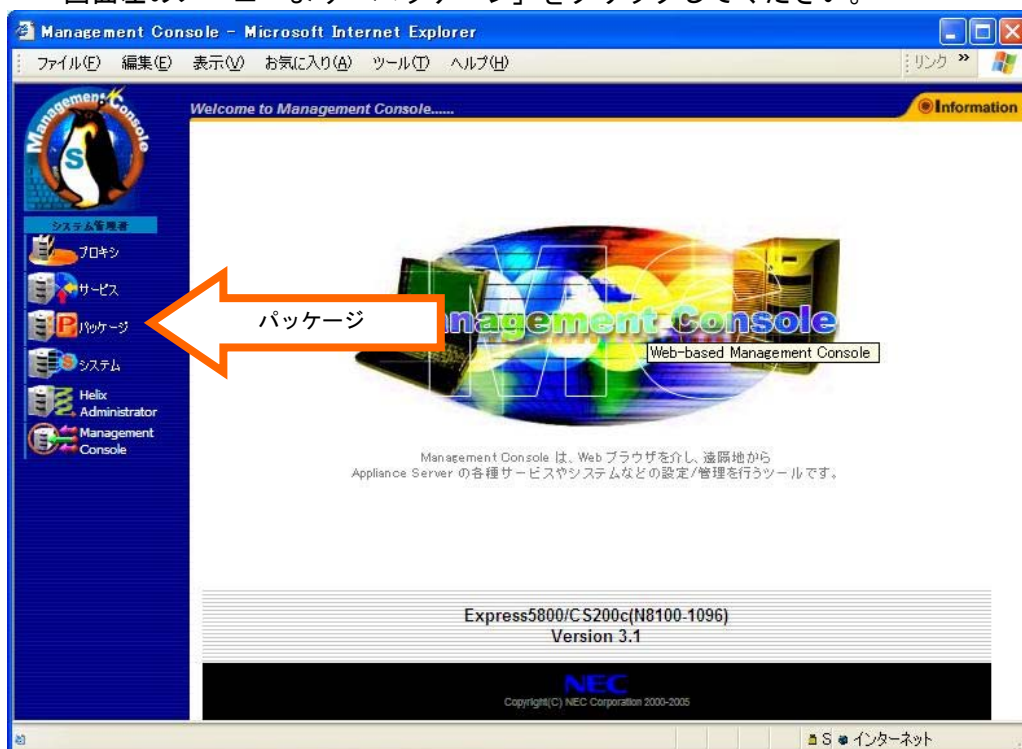


図 2. Management Console のトップ画面

(3) パッケージ画面

パッケージ画面(図3)が表示されましたら、[■オンラインアップデート]の[オンラインアップデート]をクリックしてください。

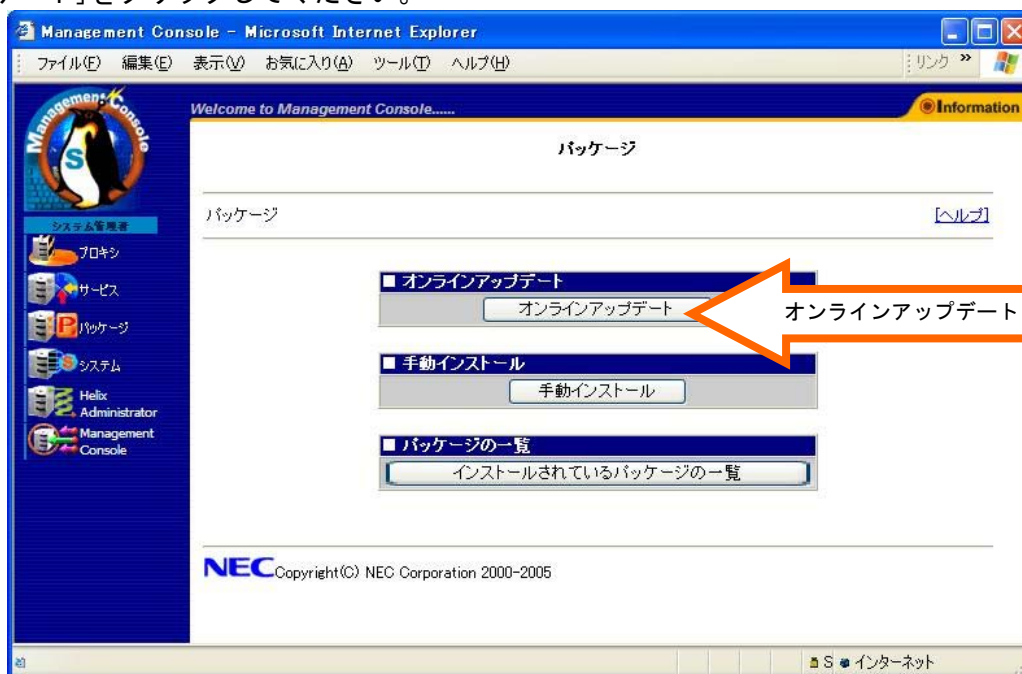


図 3. パッケージ画面

(4) ユーザ認証画面

初めてお使いになる場合は、アップデートモジュールを提供する WEB サーバへの認証が必要となります。(図4)

過去にオンラインアップデートを使用されたことのあるお客様は(5) アップデートモジュール一覧画面が表示されます。

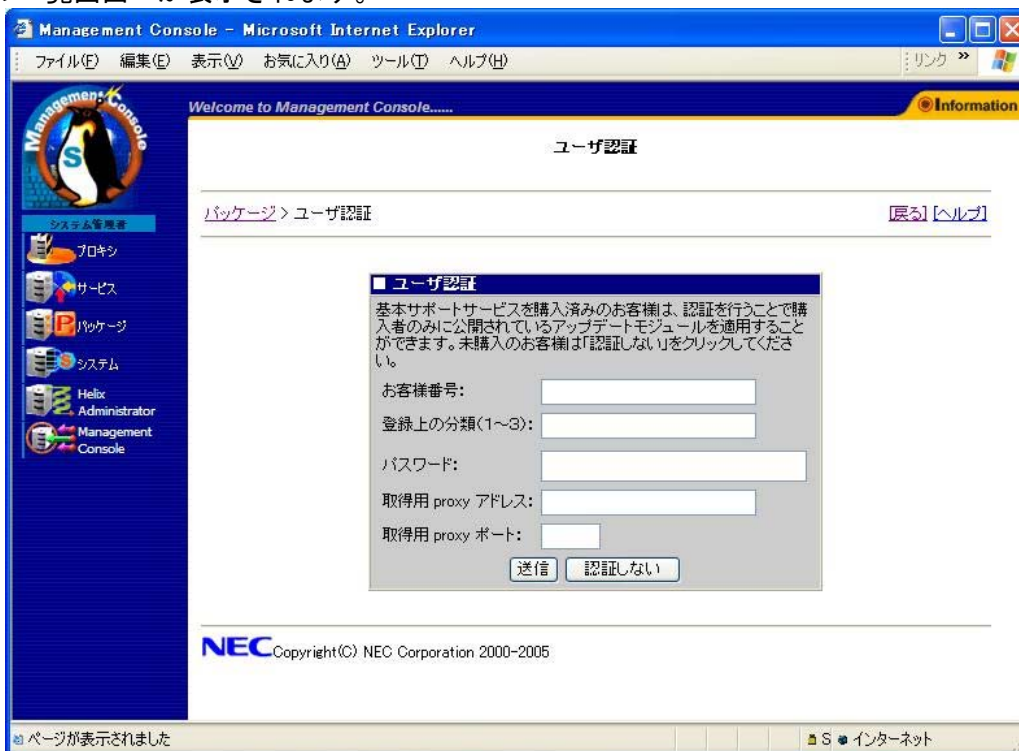


図4. ユーザ認証画面

注意：

基本サポートサービスを購入済みのお客様向け認証ページです。未購入のお客様は「認証しない」をクリックして次へ進んでください。

基本サポートサービスを購入されたお客様は、認証することで全てのアップデートモジュールを参照することが可能です。未購入のお客様は、購入者向けに公開されているモジュールは参照できません。

(5) アップデートモジュール一覧画面

アップデートモジュールが提供されているサーバに自動接続を行い、現在公開されているアップデート情報を表示します。(図5)

既にオンラインアップデートを実行されたことのあるお客様が最新の情報を表示するためには[最新情報に更新]をクリックする必要があります。

アップデートモジュールは適宜更新されます。そのため表示されるアップデートモジュール一覧は図5とは異なる可能性があります。



図5. アップデートモジュール一覧画面例

[詳細情報]や、各パッケージ名をクリックすることで詳細な情報を参照することができます。特に[詳細情報]にはアップデートの適用に関して重要な注意事項が記載されていることがございますので、[適用]をクリックする前に必ずご一読ください。

重要 : CSシリーズ CS300e/CS500e (N8100-1345/N8100-1346) のアップデート適用について

以下の両方の条件に適合する場合に限り、[適用]の前に特別な操作を行い、CSの動作を停止させる必要があります。

行わなかった場合、CSが正常に動作しない可能性がありますので、ご注意ください。

- ・ハードディスクが論理的に2台以上に見える構成の場合

ハードディスクを非RAID構成で2台以上搭載している場合や、RAIDで論理ドライブを複数作成している場合が該当します。

- ・wbmccacheパッケージのバージョンがwbmccache-3.1-55未満の場合

必要な操作は以下のとおりです。

CSのコンソールから直接、あるいはtelnet経由でログインします。

```
login: mainte
```

```
Password: ←お客様が設定済みの保守用パスワードをご入力ください。
```

```
[mainte@host]$ su -
```

```
Password: ←お客様が設定済みの管理者パスワードをご入力ください。
```

```
[root@host root]# /sbin/service roma stop
```

→プロキシ動作が停止します。

```
[root@host root]# /sbin/rmmod kc
```

```
[root@host root]# /sbin/lsmmod | grep kc
```

→何も出力されなければ問題ありませんが、

「kc ***** *」(*は任意の数字)が出力された場合は

もう一度/sbin/rmmod kcを実行し、出力されなくなるまで繰り返します。

ManagementConsoleより[適用]を行い、画面に従い再起動します。

最新のアップデートモジュールを適用するには、[適用]をクリックしてください。

(6) 信頼性の確認画面

適用対象となるモジュールが信頼できるものか確認するための画面が表示されます。

アップデートモジュールは適宜更新されます。そのため表示される画面は図6とは異なる可能性があります。

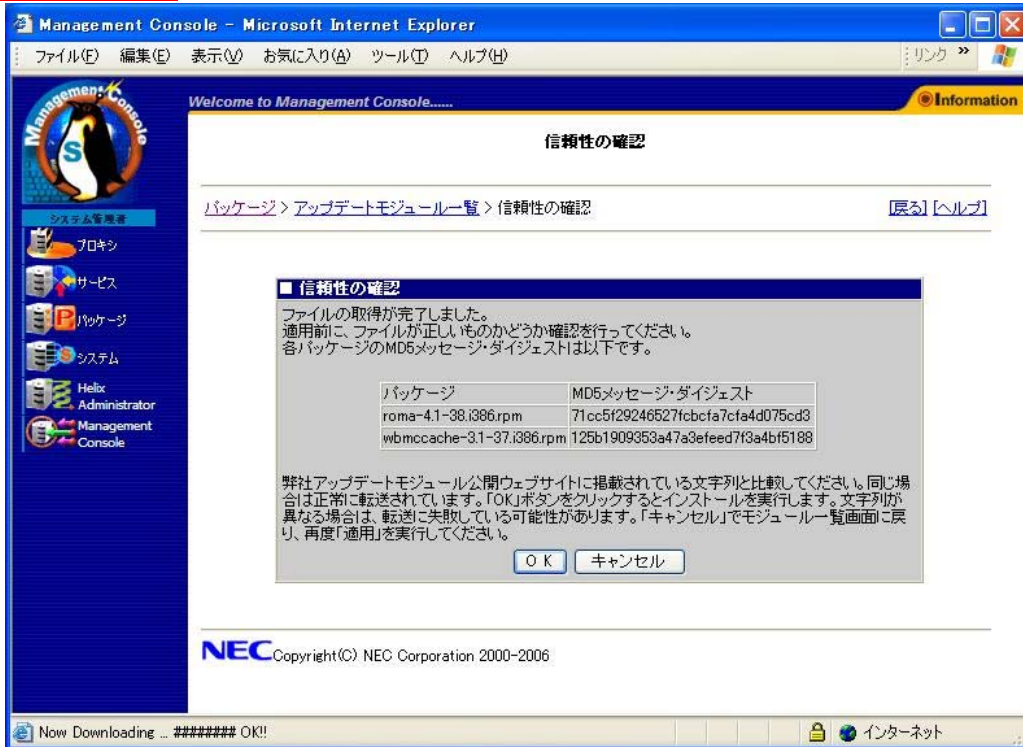


図6. 信頼性の確認画面例

注意：

この画面が表示された場合は、信頼性の確認が正常に行われています。

[OK]をクリックして次へお進みください。

(7) アップデートの完了

アップデートが正常に完了した場合には以下のような操作結果通知画面が表示されます。(図7)

アップデートが失敗したメッセージが表示された場合は、(2) から再度実行してください。

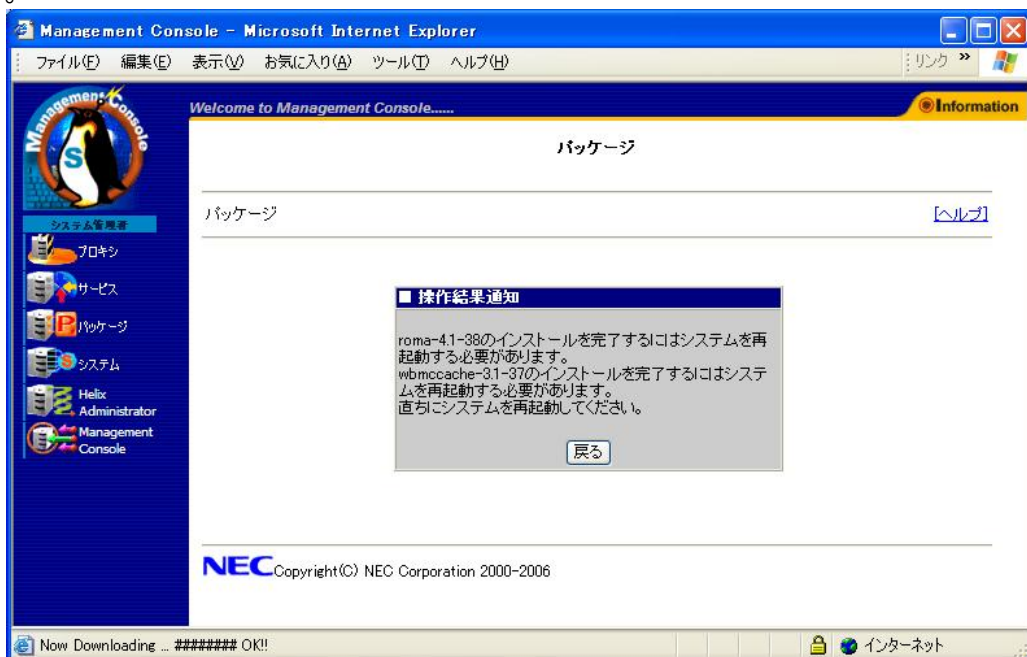


図7. 操作結果通知画面例

(8) キャッシュサーバの再起動

(7) でシステムの再起動が必要なメッセージが表示された場合には、画面左のメニューから、**[システム]**をクリックしてください。
[システム]画面(図8)が表示されます。

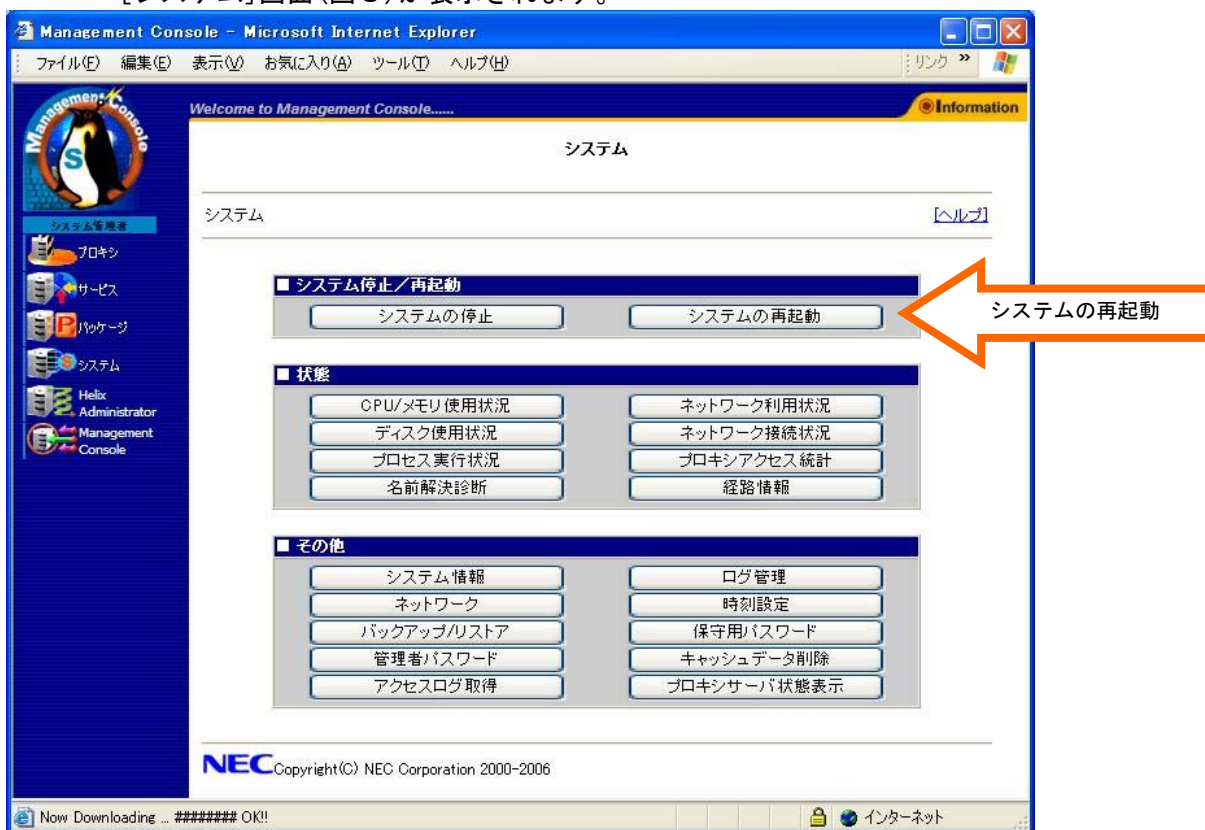


図8. システム画面

[システムの再起動]をクリックしますと、システムの再起動が行われます。
再起動には数分~数十分かかります。

(9) モジュールのアップデートの確認

(8) までの作業が終了したら再度アップデートモジュール一覧画面を開きます。適用したモジュールがアップデートモジュール一覧に表示されていないければ、アップデートは正常に終了です。

正常にアップデートされたモジュールは今後アップデートモジュール一覧画面に表示されることはありません。

未適用のモジュールがアップデートモジュール一覧画面に存在する場合には(5)から(8)の手順で未適用モジュールを適用してください。

以下の画面(図9)が表示されるとモジュールのインストール作業は全て完了です。



図9 アップデートの完了

以上でアップデート作業は終了です。